

# ドナウ の 四季

## 2012年・秋季号・No.16

ハンガリー・聾唖	山本 益博	1
ハンガリーから見たロンドンオリンピック	盛田 常夫	2
永眠者に祈りを捧げよう	ジゴー・アンドラーシュ	4
“坊ちゃん”になるのか	ヘルフェンバイン・カタリン	5
留学生自己紹介	十川 安里・吉田 昌平	6
留学生自己紹介	松岡 美羽	7
こどもたちのこと	森田 友子	8
緑の丘日本語補習校	宮崎 彩香	10
	桑名 一恵	11
ブダペスト日本人学校ふれあい大運動会	坂本 華衣・寺内 さくら	12
	彦坂 日向子・大野 円香・島村 岳岐	13
ポスト香川時代のBundesliga	盛田 常夫	14
スポーツ行事・運動サークル情報		15
コンサート情報		16

## ハンガリー鼯鼠

山本 益博

ほどこでした。半年もすると、ハンガリー語で日常会話ができるようになり、10ヶ月後の昨年5月に私たちがハンガリーへ出かける時、買い物でも3人で出かけた旅先でも、言葉は驚くほどの上達ぶりでした。

ワインの産地、エゲルやトカイのワイナリーを訪れた時など、ワイナリーのオーナーが留学生が日本人観光客のガイドとしてきたと思ったようでしたが、娘が自分はまだ高校生で「両親と一緒にきました」というと、とても驚きながら、グループの観光客に



は見せないワイン畑やっておきのワインを試飲させてくださったりしました。この5月の旅行で、ハンガリー料理の一端にふれ、その魅力を知ることになりました。なにしる、ヨーロッパに出かけても、パリを例外として、ひとつの都市に長く滞在するということがありませんでした。それが、ブダペストに5日間、エゲル、トカイへ旅行した2日間と、娘がいたおかげで計1週間もハンガリーに滞在したわけで、まずは「ゲーヤッシュ」とばかりに、毎日あちこちの店で注文しては食べました。

当たり前のことですが、どこの店にもそこ

の店の味があり、野菜の滋味をじっくりと味わいながら、舌鼓を打っていました。それから、娘のホームステイ先の料理上手のお母さんが作ってくれた「果物のスープ」とジャムを使った伝統的なケーキは忘れ難い美味しさでした。「ゲーヤッシュ」も、このお母さんが作ってくれたものが一番だったかしらん。

娘は1年後、留学を終えて帰ってきましたが、年明け早々の今年の正月、再びハンガリーへ旅立ちました。リスト音楽院を受験するためです。3月の卒業式だけは出席したいと日本へ一時帰国しましたが、すぐにブダペストに戻って受験の準備。娘は短期集中型のようで、運も手伝ってこの7月、ピアノ科に合格しました。

もう、こうなると、親も「ハンガリー鼯鼠」にならざるを得ません。8月に入って、アパートやピアノを探す娘の手伝いを理由に、2度目のハンガリーです。観光客には違いありませんが、我が子がこれから何年間もお世話になると思うと、ブダペストの景色も違って見えてくるのです。くさり橋を眺める夜景などは、ノスタルジーを感じるほどの懐かしさです。これを日本の仲間に伝えようと、毎日フェイスブックで、ハンガリーの様子を伝えました。

ワインの名産地ヴィラーニでは「TINTA」(Gere Attila Pincészet)というワインに巡り合い、これは鰻の蒲焼きによく合うのではなからうかと感じ、東京へ持って帰り、すぐにそれを実行してみると、面白いほどに素敵な相性を見せてくれました。また、コーヒー党の家内は、どこで飲んでもハンガリーのコーヒーは美味しいと言って、これまた土産に買うほどこでした。これからは、ハンガリーの料理、食材の素晴らしさを伝えるお手伝いが少しでもできればいいなと考えております。

(やまもと・ますひろ 料理評論家)

## 温熱治療のパラダイムを転換する

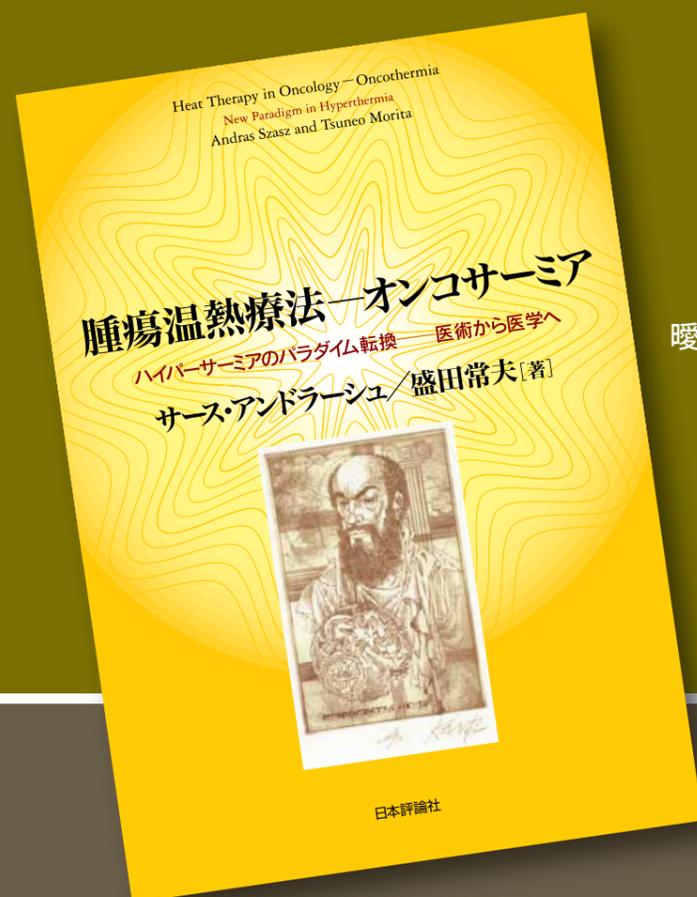
温熱治療を根本から見直し、  
あるべき手法を示した著書。

曖昧な日常知を科学によって解明した画期的な著作。

オンコサーミア治療器は世界25カ国で利用。  
ドイツでは百か所以上のクリニックで、  
韓国の主要な大学病院に設置。

好評発売中。定価3200円+税。  
大手書店、Amazonにて購入可。

- 第1章 ハイパーサーミアの歴史と評価
  - 1.1 ハイパーサーミアとは何か
  - 1.2 ハイパーサーミアの曖昧さと課題
  - 1.3 ハイパーサーミアの歴史的概観
  - 1.4 腫瘍治療のハイパーサーミア
- 第2章 ハイパーサーミアの物理学
  - 2.1 電磁気学の基礎概念
    - (1) 電磁気現象
    - (2) 電場と磁場
    - (3) キャパシタ
    - (4) 位相シフト
    - (5) インピーダンス
    - (6) 電磁波
  - 2.2 バイオ電磁気学
    - (1) 電磁波スペクトル
    - (2) バイオインピーダンス
  - 2.3 「非熱」効果
    - (1) 非温度依存 (NTD) 効果
    - (2) 電磁場におけるNTD効果
    - (3) 電磁気による目標選択
    - (4) 電磁気と生体システム
- 第3章 ハイパーサーミアの生理学
  - 3.1 生体におけるエネルギー、熱、温度
  - 3.2 生体における温度制御
  - 3.3 生体の加熱と体温
  - 3.4 加熱による温度の分布
  - 3.5 全身加熱と局所加熱の本質的な差異
  - 3.6 加熱と冷却：リスクとその回避
  - 3.7 温度測定と熱積算量 (ドーズ)



- 第4章 腫瘍温熱療法
  - 4.1 腫瘍温熱治療の基本概念
  - 4.2 ハイパーサーミアの手法
  - 4.3 熱の作用と併用効果
    - (1) 熱と血流
    - (2) ハイパーサーミアの併用効果
  - 4.4 ハイパーサーミアの熱生成
    - (1) アンテナ放射
    - (2) 磁場 (コイル)
    - (3) 容量性カップリング
    - (4) 伝導加熱
  - 4.5 ハイパーサーミア治療が抱える問題
- 第5章 オンコサーミアの理論と方法
  - 5.1 電場の利用
  - 5.2 細胞燃焼
  - 5.3 腫瘍治療における細胞加熱
  - 5.4 ミクロスコピック加熱
  - 5.5 集束化の原理
  - 5.6 温度の役割
  - 5.7 安全性
  - 5.8 積算量 (ドーズ)
  - 5.9 臨床事例
- 第6章 自然療法としてのオンコサーミア
  - 6.1 ホメオスタシスの復位
  - 6.2 細胞の自然死の促進
  - 6.3 細胞転移の阻止
  - 6.4 転移がん細胞に作用

## ハンガリーから見たロンドンオリンピック

盛田 常夫

ハンガリーでみられるオリンピック放映は、当然のことながら、ハンガリー人選手中心になるが、その代わり日本人選手との対決はすぐにハンガリー人と話題になる。競泳200米平泳ぎのジュルタと北島の対決、陸上ハンマー投げのバルシュと室伏の一大対決にハンガリー中が沸いた。

ハンガリーの競泳陣はオリンピック直前にデブレツェンで開催された欧州選手権のメダル獲得順位でトップとなり、オリンピックの活躍が期待されていた。ところが、競泳種目が始まって間もなく、400米個人メドレーで何と欧州選手権者のチェ・ラースローが予選落ちしてしまった。チェは予選でフェルプスと同じ組で100分の7秒差で1位と2位を分け合ったが、フェルプスがかろうじて8位で決勝に進出したのにたいし、チェは9位で落選というとんでもないハブニングから競泳種目が始まった。フェルプスは調子が上がらないまま、決勝でも日本の新鋭荻野公介に敗れて4位となり、その後の波乱を予想させる展開となった。オリンピックは世代交代を目の当たりにさせてくれる。それは残酷な現実を見せてくれるが、そうやって世代交代が進むのだから自然なプロセスでもある。

嬉しいことではなかったが、ハンガリーは800米リレーで男女とも日本と決勝進出の最後の椅子を争った。自由形は依然として弱いものの、男子400米メドレーリレーで銀メダルをとったように、日本は全種目に底力を見せたのにたいし、ハンガリーは欧州選手権のレベルをさらに一段引き上げることができなかった。だから、ジュルタの世界新のおまけが付いた金メダルは、ラストが溜まったハンガリー人の溜飲を下げる大ニュースになった。全盛期を過ぎた北島と今が旬のジュルタの対決は新旧交代を印象付けた。それはバルシュと室伏の対決でも同じだ。

37歳の室伏は昨年の世界選手権で81米を超える投擲で優勝し、これならオリンピックも行けると思わせたが、歳をとるごとに、最高の調子にもっていくのが難しくなる。満身創痍だろうから、体と相談しながら、体調を上げるしか方法がない。そこが若い頃との違いだ。室伏の投擲には明らかに回転のスピードが欠けていた。優勝ラインが低かっただけに惜しいが、優勝したバルシュや2位のプリモジュの方が見た目にも力強かった。万全の調子でなければ、若い選手に太刀打ちできない。しかし、これだけ長く競技生活を続けてきた室伏選手に、大きな拍手を送りたい。ハンガリー人の血を引く室伏だから、ハンガリーの選手に負けて本望だろう。

アテネオリンピック後に金メダルをはく奪されたハンガリーのアマシュ(ハンマー投げ)、ファゼカシュ(円盤投げ)はともにソンバトヘイのクラブ所属である。バルシュもまたソンバトヘイのクラブ所属で、ロンドンオリンピックはアテネのリヴェンジとも言える因縁の勝負となった。日本の昔の公団住宅のような貧しいパネルハウスでバルシュの母親たちが涙を流して喜ぶ風景を見て安堵感が走った。北島を破ったジュルタもまた、不況が続くハンガリーに、一筋の光をもたらしてくれた。日本が負けてハンガリーに元気を与えてくれたなら、それで良いではないか。

たまたまTVのスイッチを入れたら、競泳最後の種目、オープンウォーター10km女子の終盤だった。何と、室内競泳種目に出場していたリストフ・エーヴァがトップを泳いでいるではないか。ハンガリー人も彼女がこの種目に出場していることを知っていた人は少ないだろう。リストフは弱冠15歳でデビューし、自由形の400米と800米で欧州選手権や世界選手権で活躍したが、常に金メダルに届かず、銀メダルを集める「銀の女王」と揶揄された。怪我もあり、

何時しか名前が消えた。2005年に20歳の若さで現役を引退した。2009年に現役復帰し、長距離を中心に再び世界を目指すことになった。コーチによれば、毎日、朝から黙々と一人で練習をこなしていたという。

2位グループの4名を体2つほど離れて数百米を残す最終盤に、アメリカのヘイリーが猛然とスパートをかけた。いったんは並びかけられたが、常にリードを保ち、残りの200mほどを体半分リードしたままゴールした。10kmも泳いで最後は0.4秒差だったが、安心して見ていられるレースだった。この種目に賭けたリストフの執念が勝った。初めて世界の舞台で金色のメダルを獲得したのだ。

翌日のハンガリーの新聞は、「リストフの復活はハンガリー人に不屈の精神を教えてくれる」と論じていた。不況で失業している人や、経済的な困難に陥っている人も、努力すればもう一度立ち上がることができるという論調である。ふつうのハンガリー人が一番苦手なことでもあるが、スポーツの世界に限らず、世界を極めたハンガリー人は皆、持って生まれた才能に加え、凡人の何倍もの努力を重ねて道を究めている。ふつうのハンガリー人がオリンピックのメダリストのように皆努力すれば、ハンガリーの黄金時代もやってくるのだが。

サッカー男子の初戦のスペイン戦はハンガリーでも生中継された。日本はこの初戦に合わせてコンディションを仕上げてきた。これにたいして、優勝を狙うスペインは明らかに決勝トーナメントに照準を合わせていた。決勝まで予選3試合、決勝トーナメント3試合を中2日の強硬日程で戦うのだから、選手とチームのコンディションをどう整えるか、どこにチームのコンディションを合わせて行くかは最大の課題になる。最初から全力を出したのでは後が続かないからだ。そこを日本が突いた。しかも、無名のワントップ永井が縦横無尽にスペインのディ

フェンスラインに突入し、スペインのディフェンスは混乱に陥った。思いがけない敗戦、それも完敗に近い敗戦で予定が狂い、後の2試合のスペインは空回りして予選落ちとなった。欧州選手権の優勝候補オランダが予選リーグで敗退したのと同じパターンである。

女子も対戦相手によって、しっかりとした戦術が立てられていた。体力のない日本女子には効率的に戦うことが至上命令だった。ブラジル戦もフランス戦も、終盤は攻撃の嵐に曝されたが、勝負では勝ち逃げは常套手段だから、それを批判するのは間違っている。佐々木監督以下のスタッフの戦術が完全に嵌ったオリンピックだった。

柔道は絶対的なスターがいない状態で、それほど期待もされていなかったが、あまりの弱さに拍子抜けした。柔道界の内情は分からないが、世界の強敵をしっかりと分析し、対戦相手ごとに戦術を確認することがなかったようだ。そういう理詰めの柔道ではなく、猛練習による精神主義的な柔道が篠原イズムのような。昔の軍隊で使った「精神注入棒」で「無理偏にげんこつ」的指導を行っては選手が委縮するだけだ。メダルをとった選手へのねぎらいの言葉や金でないメダルをとった選手を称える言葉が監督からはなかったという報道もあった。コンディションを整えて行くという発想が現在の指導体制になく、選手は疲れているという批判もある。国際化した柔道界で日本が地位を築いていくためには、日本の柔道界がもっている古い体質の改革から始めないと駄目だろう。

ダルヴィシュが大リーグで苦勞しているのも、ボールの大きさを別とすれば、中4日の調整日数にあるのではないか。投球数を制限するという違いはあるが、中5日の日本に比べて、疲労の取り方に違いが出てくる。ひと昔前は連投するのがエースの証明であった。だから、年間30勝とか35勝する投手がいた。今の高校野球と同じスタイルで口もやっていた。しかし、肘や肩を壊しては元も子もない。だから、現在のプロ野球の投手は厳格な管理に置かれている。調整日

数が1日違うだけでもパフォーマンスに大きな違いがでてくる。サッカー欧州選手権の決勝戦で、イタリアは中2日、スペインは中3日での試合となった。明らかにイタリア選手の動きは鈍く、ほとんどチャンスを作れないまま完敗した。

テニスで五輪優勝の冠を狙ったフェデラーは準決勝でデルポトルに粘られ、4時間半のゲームを強いられた。フェデラー基準で言えば、通常の3セットマッチ3試合分の時間だ。中1日あったが、ウィンブルドン決勝で破った休養十分のマリーにいいところなく完敗してしまった。フェデラーの歳を考えば、五輪タイトルをキャリアに積み上げる最後のチャンスを失った。返す返すも、フェデラーのテニス人生でデルポトル戦が悔やまれるだろう。

このように選手に休養をいかに取らせ、最高のコンディションにもっていけるかが、潜在能力を發揮させる重要な要因になる。そういう配慮なしに、ただ猛練習あるのみという一時代前の精神主義では、今の世界の競技水準に対抗できないことは確かだ。

さて、競泳の不振でロンドンオリンピックの成果に暗雲が漂ったハンガリーだが、最終的に金8個を獲得して、国別メダリストの9位にランクインした。ここ4大会は2桁順位が続いていたが、久しぶりに1桁順位に滑り込んだ。中欧の周りの小国を見ても、メダル獲得はハンガリーに及ばない。中欧の小国との比較が失礼になるほど、ハンガリーは大国に続く地位を保持している。以前にハンガリーのオリンピック記録について書いたことがある「小さなスポーツ大国」(『ハンガリーを知るための47章』明石書店)。ハンガリーは1896年の第一回大会からオリンピックに参加していて、これまで開催された25回のオリンピックで実に18回も1桁位のメダル獲得を記録している。夏季・冬季五輪の総メダル数でも、ハンガリーは並みいる大国に続き、10位の位置を確保している。競泳のメダル数でも男子が日本に続く歴代6位、女子が歴代5位(日本は9位)を維持している。これは意外だが、スポーツ大国にふさわしい歴史だ。競

技人口が圧倒的に少ない小国ハンガリーがどうしてスポーツ大国の地位を保持できるのだろうか。ただ、水球を除けば、ハンガリーのメダルは最近ではほとんどが個人種目に限られていることだ。以前は水球やサッカーで金メダルをとっていたが、水球4連覇が阻まれたロンドンオリンピックでは団体競技での金メダルがなくなった。これも個人能力で世界と勝負するハンガリーの特徴を現わしているかもしれない。

それぞれの国にはスポーツの伝統がある。日本もハンガリーも平泳ぎには伝統がある。私がお子だった頃も、日本の水泳は強かった。ずーと潜ったまま、急に頭を出す平泳ぎで、古川勝はメルボルンピックで金メダルをとった。富山国体の水泳会場となった高岡高校に隣接するプールで、メルボルンオリンピックで活躍した平泳ぎの古川、背泳ぎの長谷景治やバタフライの石本隆を追いかけたのを記憶している。当時の世界の水泳界は、アメリカ、日本、オーストラリアの三国の争いだった。日本でも三国対抗が行われ、「第五のコース、石本君、プリチストンタイヤ」などのアナウンスは今も耳に残っている。山中毅とマレー・ローズとの1500米の一騎打ちなど、話題に絶えなかった。それ以後、アメリカが断トツに強くなり、オーストラリアも自由形のスターが出るなど、日本の影が薄くなった。ところが、最近はスイミングスクールの成果がでて、日本から次に若い有能な選手が出てくるようになった。さらに、一昔前まで水泳とは無関係だった国々、北欧やブラジルからも世界的な選手が輩出し、世界の舞台の競争はきわめて厳しい。オーストラリアやロシア、あるいはドイツなどは世代交代に失敗したのか、一時の勢いがいない。こういう激しい世界の潮流の変化の中で、日本の若い選手が世界の舞台で堂々と戦っているのは頼もしい限りだ。フェルプスを破った荻野、ロクテをかわして金メダルかと思わせた入江など、物おじしない若者が世界の舞台で活躍するのは本当に頼もしい。

(もりた・つねお 「ドナウの四季」編集長)

Zsigó András

## 永眠者に祈りを捧げよう

一日ごとに秋の色が濃くなってきたころですが、つい最近一年間の日本留学から帰ってきた僕には早速大学の新学期が始まりました。帰国してすぐに授業を受けるのは精神的にも肉体的にも負担が掛かりますが、のんびり過ごす時間もなく相変わらず元気で生活しています。こんな時、ELTE大学で「ハンガリー新聞に見られる日本文化」というコースを受講し始め、ある授業で次のような質問が出ました。新聞記事から見られる日本人の考え方を中心にした話のなか、「ハンガリー人と日本人の死生観はどう違いますか。」と教授に聞かれました。昨年、留学していた京都大学で勉強したことが直ぐに思い浮かびましたが、決して一言で答えられる質問ではありませんでした。

遠からずハロウィーンや死者の日といったカトリック教の記念日を迎えますので、この場をお借りして日本人とハンガリー人の死生観について少しご紹介したいと思います。読者の皆様もご存知の通り、ハンガリーの国教はキリスト教です。10月31日のハロウィーンの後、諸聖人の日の翌日にあたる11月2日は死者の日です。カトリック教会では、地方によって異なる習慣が未だ残っており、死者の日にすべての死者の魂のために祈りを捧げます。ハンガリーの一般的な家庭では、11月2日になると、家族や親戚の墓を訪ね、花などを飾り、点火した蠟燭を墓の上に配置します。しかしながら、死者の日はいくつか共通点を持っているとはいえ、その機能や役割は完全に一致するとは言えません。



また、「死」自体はどう見られるでしょうか。偶然、つい先日これをテーマにしたある文学作品を読み、関心を持ちました。それは志賀直哉の「城の崎にて」という名作ですが、そこで描かれていた世界は既読したハンガリーの文学のものとは全く異なる印象を残しました。「城の崎にて」では、合わせて三つの場面で死生観が垣間見られる部分が現れ、代表的私小説作家として知られている著者自身だと考えられる主人公に大きな影響を与えています。お読みになった読者にはお分かりだと思いますが、上記の三つの場面は三匹の動物(蜂、鼠、いもり)の死に基づいたシーンです。この三つの場面で様々な体験をした主人公を通して日本の死生観を捉えることができます。ここでは、作品を詳しく考察するスペースがないため話を省きますが、要するに「城の崎にて」の主人公の「自分」はそれぞれ異なる状況の場面で死と生を経験し、そしてそれらの反映によって、彼の死に対する見方は飛躍的な変化を遂げました。身近に死を感じ、生命の真の大切さに目覚めるのは人間の本来の性質です。

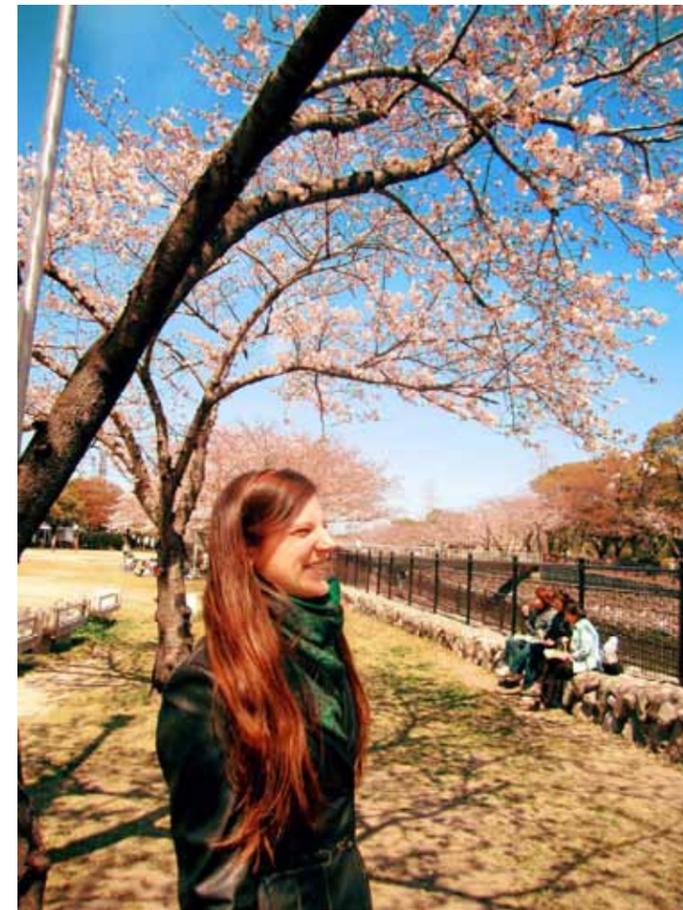
昨年、東日本大震災の時、遺体が発見されずに日本の慣習として未だ強く残っているお通夜が出来なかったという例は少なくないでしょう。日本人の多くの方の死に対する見方が変化したに違いないと察します。しかし、これは決して日本人だけに言えることではありません。世界の各地で多くの人が悲劇に驚愕し、被災により亡くなった方々のために祈りを唱えていたのです。今年も死者の日が来たら、家族や親戚の魂だけでなく、東北で亡くなった方々の魂のためにも蠟燭を灯し、ハンガリー人のみんなで祈りをお送りしたいと思います。(ジギー・アンドラーシュ)

エッセイ

Helfenbein Katalin

## “坊ちゃん”になるのか

私が日本の文化や文学に意識的に触れはじめた理由は、父親が合気道を習っていたことと、同じく父が日本に関する本を集めていた影響からです。高校生の頃、芥川龍之介や夏目漱石の作品を読んでもとても気に入ったため、日本語を勉強しようと思いました。このきっかけを聞いた日本人の友達は「芥川龍之介?あれ、日本人でもなかなか読めないよ」とよく言います。実を言うと日本語ではなく、ハンガリー語に翻訳された『藪の中』、『坊ちゃん』などを読んだわけで、なぜ皆が芥川龍之介の名前を聞いて驚くのか、大学生になるまでさっぱり分かりませんでした。また、教師をしている父親の影響か、子供の時からずっと教師の仕事に興味を持っており、高校を卒業した後、“坊ちゃん”のような生活を送るのも良いと思うようになり、その後どうしても日本語の先生として働きたいという夢を持つようになりました。それで、日本語系の専攻に進学することにしました。



2006年、ELTE大学の人文学部東洋学研究所日本学科に入学することになりました。ELTE大学に通った3年間では学ぶ喜びと苦労を実感しましたが、言語や文学、歴史などの授業で取得した知識量、内容を振り返ると、努力してきて間違いなかったと思えます。本格的な日本語の勉強を始めて3年で『羅生門』が日本語でも読めるようになったことは表現できない程嬉しく、また驚きでもありました。さらに、中国語や韓国語、モンゴル語を勉強する機会もあり、アジアのあらゆる文化を紹介する講義を受講することができました。大学の授業以外では、同級生や先生との活動として「ニハハ・クラブ」という日本人とハンガリー人がいっしょに話すためのサークルを実施し、数多くのハンガリー人と日本人が集まり、楽しい会話やゲームをしながら、お互いの文化や習慣の違いなどを体験することができました。卒業論文では、日本の文学における河童の由来や進化について分析し、日本書紀から芥川龍之介まで資料を活用しながら、時代によって異なる河童の姿が描かれていることを紹介しました。

ELTE大学を卒業した後、カーロリ大学の日本学修士課程に進学することになりました。日本や日本語に関する知識を増やす過程で語学に関心を持つようになり、日本人の考え方を反映する伝達や特別なメタコミュニケーションについて研究しようと思いました。修士課程の授業では日本の古典文法や経済、美術についての研究のほかに、ELTE大学とカーロリ大学の学生たちを対象に、日本や自分の専門についてどう考えているか調査を行い、意識や意見を分析した後、日本語を勉強している高校生に発表しました。

2011年4月から大分大学に留学し、それまでに身につけた調査方法を活かして、大分の指導教官の指導のもと、修士論文のテーマ「日本人のメタコミュニケーション」に関する調査をより深く行うことができました。アンケート調査とインタビューによって、日本語のあいまいな表現はなぜ使われるのか、またどのように使われているのかが少しずつ明確になりました。今後もその背景となる文化的基盤と共に探っていきたいと考えています。

2012年からELTE大学に再入学し、日本学科博士課程に通っています。博士論文のテーマは「以心伝心」で、それに不可欠な講義を受けると共に、学部2年生に日本語を教えることになったため教師としての経験も得られることになり、夢に一步近づくことができました。教育に関わる仕事は自分では天職だと思っています。“坊ちゃん”のような学生に笑われる先生になってしまうかどうかまだ分かりませんが、自分が取得した知識を、関心を持ってもらえるように学生に伝えることは、頑張りがいがあります。日本の言葉や文化だけを教えるのではなく、学生たちに勉強の面白さも知ってもらいたいため、できる限り楽しく学んでもらえるように工夫していきたいと思っています。

(ヘルフェンベイン・カタリン)

エッセイ

## 留学生自己紹介

### 不安から出発したハンガリー留学

リスト音楽院大学院ピアノ科  
十川 安里

私は今リスト音楽院のマスター2年に在籍しています。リスト音楽院には、5年前パートタイム生として入学しました。リスト音楽院で学びたいと思ったきっかけは、日本で通っていた大学2年の時、客員教授として今のピアノの先生でもある、ファルヴァイ・シャンドル先生にお会いした事から始まりました。1年に2、3回と、とても少ないレッスン回数でしたが、教えて頂くたびに先生がいっしょにハンガリーで、音楽を学びたいと思うようになりました。そして、2007年9月に現地で受験を受けて、リスト音楽院にパートタイム生として入学しました。現地の受験月は7月くらいだと思うのですが、私は皆さんより2ヶ月遅い9月に受験しました。ですので、リスト音楽院の入学も決まっていなかった8月、母と2人ハンガリーに到着した時は不安でいっぱいでした。

ハンガリーには、知り合いが誰もいませんでしたので、まず住む家を紹介してもらう為リスト音楽院の事務所を訪れました。しかし、まだ夏休み中で空いておらず、どうしようかと道をウロウロしていたところ、リスト音楽院の学生さんに助けて頂きました。今、思えば笑えるエピソードですが、当時は右も左も分からず勢いだけで来てしまったハンガリーで、日本人の方に助けて頂き、とてもホッとしたのを覚えています。

そして、9月の入学試験も無事終わり、パートタイム生としての1年目が始まりました。パートタイム生は、ハンガリー語等の授業はありませんが、基本レッスンのみで、室内楽は希望を出せば勉強できるというシステムでした。

前期、後期とも実技試験というものがありますので、1年に1回はコンサートが出来るように自分で目標を立てて過ごす毎日でした。レッスンに持って行く曲もコンサート用のプログラムを意識し、自分で考え持っていました。

でも、曲を持っていくペースが日本の大学よりも早く、日々譜読みに追われていました。先生に言われたこともすぐには出来なかったり、テクニックのなさを痛感したりと自分の思うようにレッスが進まなくて泣くこともたくさんありました。

幸いハンガリーは日本人の留学生がたくさんいますので、お互いレッスンの事など話す事で色々発散でき助けられ1年目が終わりました。2年目からは、自分のやりたい事もはっきりしてきましたので、レッスンもハンガリーでの生活も、とても充実していました。

そしてパートタイム生としての4年目、本当は日本に完全帰国しか、どうしようかと悩んでいたところ、先生からマスターを受けてみたらと言われてました。その年、同期の友達が素晴らしい卒業演奏会をして、立派にマスターを卒業していくのを近くでみていて、私もマスターに入りたくて考えていた所だったので、受験することにしました。

そして、リスト音楽院で勉強するようになって5年目の2011年9月に、マスターに入学しました。パートタイム生の時とは違い、前期、後期の試験もありますし、アナリーゼや音楽史等の実技以外の授業も増え、とても忙しい日々をおくる事になりました。ピアノの練習時間も、授業と授業の合間のフリーの時間を見つけ練習しなくてはいけなかったので1年目の前期の試験が終わる頃、忙しすぎて目が回りそうでした。でも、マスターに入った事で、視野がとても広がったと思います。室内楽も色々な生徒と組み、卒業演奏会などにも一緒に出演させてもらったり、人前で演奏する機会が増え、とても楽しかったです。室内楽等でのコミュニケーションは、ほとんど英語ですが、一緒に演奏するにあたって細かいニュアンス等が、うまく伝わらなくて困ったこともありましたが、でも、どうやったら伝わるのだろうか自分で考えるようにもなったので、とても鍛えられました(笑)

私は、あと1年で完全帰国です。この5年間、色々なことがありましたが、とても貴重な時間をハンガリーで過ごしました。そしてあと1年、私は悔いのないように、しっかりと勉強をして卒業したいと思っています。

私は音楽とは一生勉強だと思っています。ハンガリーに留学して、たくさん事を学びま

した。自分が何を勉強したいのか自分の先生から何を習得したいのか、それさえはっきりと目標があれば、どんな事があってもピアノを続ける事が出来るという自信。そして、何より音楽を心から楽しむ事。よく、レッスンで少しだけのミスは問題ないんだよ。それより、その曲を楽しんで演奏しないと聴いている人に何も伝わらないよ。と言われる。この言葉を一生忘れないように、これからも楽しくピアノを演奏していきたいと思っています。

### ハンガリーで一年間生活して感じたこと センメルワイス大学医学部

吉田 昌平

ブダペストで生活を始めてから一年が経過しました。あっという間だったと感じる自分もいれば、決してそうではないと思う自分もいます。いずれにせよこの一年間は自分の人生で最も充実していたと言って間違いのないと思います。

ブダペストに来てから今年の夏のはじめまで、医学部で勉強するための準備をする予備コース(Pre-Med)生として学生生活を送っていました。生活面での文化的な違いに関し



ては予期していたほどの苦勞はありませんでしたが、カレッジで勉強していく上では色々な苦勞がありました。その一番の要因は、様々な国から来たクラスメートのほぼ全員が英語ペラペラだったことです。英語に関しては事前にアメリカで訓練し、日本でも英会話学校である程度の練習量をこなしていたため多少の自信はありましたが、ここで勉強をしに来たほぼ全員が当たり前のように英語を流暢に話し、英文をすらすらと読み、自然に聞き取れるという事実を目の当たりにした時、やはり自分には英語力が全然ないのだなと感じました。最初は本当にここでやっていけるのか不安に思う日々が暫く続きましたが、クラスメートと積極的に交流したりなど自分から行動を起こしてみることで英語の環境に徐々に適応できるよ

## 留学生自己紹介

うになり、また日本人の同期生や先輩方からも勉強面や生活面の相談など様々な場面で僕を支えていただき、そして最後は無事に大学入試も終えることができました。最後まで試行錯誤の日々が続きましたが、この一年間で出会った素晴らしい仲間との時間が自分を支えてくれたのだなと強く感じています。

また、ブダペストに留学してからは親元を離れての生活であり、「家族に支えてくれていた」ということが何を意味するのかを日々実感しています。自炊生活が一つの例になるかと思えます。毎日当たり前のようにつくってくれたご飯も、ここでは自分で作らなければなりません。また日本とハンガリーでは一般常識が全然違い、ストレスに感じることもやはりあります。このように日本で過ごしていた時には気付かなかった「当たり前のこと」に気付くことができたことは、ここに来てからの一つの大きな収穫だと思います。

一方ここで暮らしてつくづく感じるのは、ハンガリーは居心地のよい場所だということです。治安も比較的良く、日本の大都会のような忙しい雰囲気を感じさせず、のんびりとした空気が漂います。ドナウ河沿いを夜に歩けば、鎖橋や王宮の丘をはじめとした歴史のある建物から暖かなイルミネーションを放ち、観光客だけでなくここで暮らしている人たちの心をも魅了します。王宮の丘から眺めるブダペストの夜景の美しさはまさに「ドナウの真珠」そのものです。決して便利な都市とは言えませんが、だからこそ感じ取れる温かみに気付き、感性がより豊かになるのを感じます。

また、休みの期間を使つてのヨーロッパ旅行は本当に楽しい時間でした。この一年で様々な国の都市や町、村を訪れましたが、旅を通して国それぞれで違った人々の言語や人柄、料理といった文化を感じ、そしてこの世界の広さに気付かされました。これが経験できるのもハンガリーで留学しているからこそと言えるでしょう。

このように、ハンガリーで留学すること自体がここでしか得ることのできないものをたくさん吸収できることを意味しており、そのなかで充実した日々を過ごすことができたと思えます。今はセンメルワイス大学医学部の新1年生として新たなスタートを切ったばかりです。これから学ぶべきこと、経験すべきことがたく

さんあると思います。そのなかでハンガリーでの留学生生活を自分にとってどのように有意義なものにしていくかを考えつつ、ここで出逢った仲間たちと共に切磋琢磨していきたいと思えます。また、留学を許してくれた家族をはじめ、支えていただいたすべての方への感謝の気持ちを忘れることなく、チャレンジ精神のもと自分の夢・目標に向かって一步一步前進していきたいと思えます。

### 偶然って凄い

リスト音楽院ピアノ科  
松岡 美羽

リスト音楽院に来ることができたのは偶然見つけたCDがきっかけでした。ハンガリーに



来るつもりなど全くなかった頃、大学の図書館でSさんという方のCDを見つけた。リストプログラムで何やら興味を惹かれるタイトルだったので、借りて聴いてみたんです。

ブレンデルのCDと一緒に。その時初めてリストの「死の舞踏」を聴いたのですが、まあ凄い演奏でした。感動して、凄いピアニストがいるなあと思ったわけです。大学にある2万枚ある内の1枚でした。それから1年ほどしてリスト音楽院に突然行きたくなり、いろいろと情報を集め始めました。周りになんのコネもなく、仕方なく苦手なパソコンとまずは向き合い、インターネットであれこれ検索してみました。するとSさんの名前が出てきました。Sさんって誰だっけと思い記憶を辿ると、ああ、CDの人だ。と思い出し、そこでSさんの先生の名前を知りました。ドラフィ・カールマン。何て素敵な名前なんだと思いました(笑)。それでドラフィ先生について検索してみると、何でも一年以上前に日本でSさん、そしてもうひとりNさんと言うお弟子さんと一緒にコンサートをされたそう。ここでNさんの名前を知りました。

しかし、私はSさんもNさんも知り合いではなく、ましてやドラフィ先生にコンタクトをとれ

るわけもなく、それから半年は何の収穫もないまま時間が過ぎていきました。先生も決まっていなかったのに願書は何故かもう出し、しかもマスター(笑)どうするんだと思いながら12月になり、するとまた偶然が起こりました。いつもはしないのに、その日は何故か図書館でコンサートの案内の冊子を見ていたらSさんの名前を見つけたんです。あっ、と思って細かく見ていくとNさんも出演されるとの事。コンサートは次の日だったんですが、もうこれは行くしかないと思いました。行って先生を紹介してもらおう。それで次の日、マダムみたいな格好して(笑)コンサートの前に学校に行き、レッスンの先生にその事を話すと、初対面で、しかもコンサートの日にそういう事を言われたら嫌がられるかもしれないから、手紙を置いてきたら?と言われ、家に帰って急いで手紙を2通書きました。「私はリスト音楽院に行きたいんです。だけどコネがありません。先生を紹介してください。」という内容の手紙。

そして会場へ行き、当日券を買い、受付の方に手紙を渡してもらおうようお願いしました。コンサート終わってからSさんNさんがロビーに出て来られたので挨拶くらいしようか迷ってしばらく1人でウロウロしていましたが、いいやって思って帰りました(笑)。それから1週間経っても何の連絡もなく、やっぱりダメかなと思ひ、また先生探しをするのか、と憂鬱になっていると1通のメールが。件名にドラフィ教授について、と書いてあり、一瞬ドラフィって誰だと思いましたが、すぐに理解して驚いてメールをよく見てみました。メールをくださったのはコンサートの主催者A先生。コンサートの日にも挨拶でステージに上がっていらっしゃいました。SさんNさんから手紙を見せてもらったそうです。何でも、A先生とドラフィ先生はお友達で、今月丁度ドラフィ先生が日本に来てレッスンをやるからよかったですら来ませんか?というメールが。手紙を出して良かった、と思いました(笑)。

一目見て、何て素敵な名前だろうと思っていました。人との出会いは凄いなと思いました。SさんNさん、そしてA先生には本当に感謝して、もう一生頭が上がらません(笑)。とくにA先生は世界一親切な人だと心の底から思っています(笑)。人生本当に面白いです(笑)

妃の街ヴェスプレーム便り その4

Veszprém こどもたちのこと

森田 友子

ヴェスプレーム生まれのふたりのこどもたちも、早いもので、この9月で上の娘が4年生、下の息子はよいよ就学することになった。今は、ようやく学校生活にも慣れ始め、母親としては少しホッとしているところ。しかし、これからこの子たちをどのように育てていったらいいのか、通過しなければならぬ難関を考えると、楽しみ半分、不安半分。どのような人間になっていくのか想像すると、興味半分、心配半分。

縁あってここでこどもを育てることになり、大切にしたい基本はどこでも同じ、普通の生活をさせてあげたい、と思っていたのだが、一方だけが充実して、片方が稀であると、家族のバランスはどこか失われるようで、両国の距離はどこまでも遠い、と痛感するようになっていた。そんな矢先だったから、今年の夏休みの、私側の親の訪問は、これまで以上に意味が大きかった。これをこどもたちに当てはめてみれば、ただでさえ距離のある片側の家族、親戚と話せなくなれば、同じように均衡がとれなくなる可能性があるということになる。益々、日本語を話す能力を、キチンと身に付けさせてあげたいと思うようになった。しかし、こどもたちは、そんな私の心配とは裏腹に、表現する内容がどんどん増えて、ハンガリー語の語彙でしか対応できないことが多くなってきている。

日本語は、これまで、私との会話と、寝る前のお話し、いわゆる読み聞かせで使ってきたが、その内容では、彼らの言語能力に追いつかなくなっているのが現状。でも、地方からでは、日本語補習校に通わせることは不可能だし、ましてや家庭教師など選択肢にも入れられない。私も、ここの生活にどっぷり漬かっているの、段々ハンガリー語の方が表に出てきていて、無理して日本語でコミュニケーションをとるより、ハンガリー語の方が自然になっている傾向がある。(ちなみに、家族との会話はハンガリー語。)ことばを仕込むのも、こどもを育(はぐく)むのも、一人二役なので、こどもの日本語教育については非常に悩む。

そこで、同じような状況の地方在住の親たちと、日本語学習会を開くことにした。先生は、お母さんだけ、大学の教室を拝借し、環境だけは立派に運営している。また、ブダペストには、Wの会という、同じような家族、30組ほどが集まる、ゆるい繋がりのお会があって、毎年一回の講演会と親睦会を開いている。現在会長をしているので、もし興味あるご家族があれば、ご連絡なく。

いろいろ試しているけれど、兎にも角にも、おじいちゃん、おばあちゃんと話せる手段だけは抜けないようにしてあげたいというのがまず念頭にあって、欲を言えば、手紙も書けるようにしてあげたいし、将来は、両方の世界を熟知している人間に育てて欲しい、と願う。けれど、ふたつの視点ができることだけでも、賜り物ものだと思うことにしている。自分と比較しても、都会で育



った私にとって、母の田舎は別世界で、両極の視点を持たた恩恵は、至るところで感じる。ハンガリー人の父親と日本人の母親に育てられているこどもたちは、両世界にはもっと距離があるから、より大きな結果が現れるだろう。

違うのは、ことばだけでなく、当然、文化面も大きい。ハンガリーで生活を送っているから、ハンガリーの文化には、すっかり馴染んでいるけれど、日本の文化は、ことばと同じで、殆ど私からしか流れない。そこで、

昨年は、日本で年越しをすることにした。

まめな両親のおかげで、こどもたちは、年末大掃除以外の多種多様な正月行事を経験できた。父と竹やぶに竹を取りに行つて門松をこしらえたり、しめ縄や生花、お飾りを手伝ったり、お節料理の田作りを炒って、栗きんとんをこすのを何時間も手伝ったり。機械ではあるけど、餅つきをして、鏡餅や切り餅を作ったのは、とても楽しかったようだ。帰国前日、運よく地元のどんど焼きにも参加でき、お祓いを受け、七草粥を食べて、最後の締めまで体験することができた。

さて、いろいろなことを一気に経験したけれど、一体何がどのくらい記憶に残ったか。ハンガリーのおばあちゃんに話している内容からすると、娘にとって、一番嬉しかったのは、日本の祖父母、曾祖父母、私のきょうだい、いとこ、親戚に会えたことのような。あとは、大晦日、除夜の鐘について、ハンガリーのパーティーと比べて、なんと静かであつたらなかったかを語っていた。一方息子は、保育園で日本の思い出を聞かれ、飛行機がどう揺れたかを事細かに話したらしい。正月準備への参加意欲はあまりなく、ありとあらゆる所で見つける違い、新しい物事に疑問が湧いてくるので、質問のし通しだったように思える。日本での出来事は、魚市場のことをかろうじて覚えていて、魚やエビ、タコがどう泳いでいたか、延々と話したようだ。

感想が何であれ、私側の世界を見せられたことは、うれしかった。これからも、ことばだけでなく、自分が家族から授かったものは、できるだけ伝えていきたい。私にとって譲れない文化は、ひな祭りと食事なのだが、我家ではお雛様を父親が準備したので、桃の節句が近づくと、彼を思い出し、食事は、母親が一番大切にしていたことだからではないかと思う。彼女のように上手に料理はできないけれど、同じように大切にしたい。こんな日常を通して、もう一方の世界を補えるのではないかと考えている。そして、彼らの人生に、どちらの世界の何が、どのくらいの割合で影響するかわかる日を、楽しみに待とうと思う。

(もりた・ともこ ヴェスプレーム在住)

# midorino oka

緑の丘日本語補習校

# バザール

日時: 2012年11月24日(土)  
13時~15時

手作り小物、雑貨、食器、電化製品  
大人服、子供服、靴、すし  
書籍、DVD



場所: ブダペスト 2 区 Törökvész(トゥルクベース)小学校内  
1025 Budapest Törökvész út 67-69





## 緑の丘補習校



私たち家族がハンガリー・ブダペストへ来て10ヶ月が経ちました、ハンガリーへ来る前はイギリス・ロンドンで2年過ごし海外生活も早3年になろうとしています。

私たちが渡英したとき長女は幼稚園年長の一学期を終えた夏の6歳、次女は歩き始めてすぐの1歳半でした。渡英するにあたって長女の学校選びは「イギリスで英語が学べる良い機会」という親の思い優先で英語のアルファベットも知らない娘は現地のInfant schoolに通う事になりました。

登校初日・二日目は訳も分からず通い、三日目には英語が分からない不安から「教室を飛び出し泣いているので迎えに来てほしい」と学校から連絡があり駆けつけ娘の泣き顔を見たときは身につまされる思いでした。親主導での学校選びだったため、娘の泣いた顔を見たあと

しばらくは「娘のためにこれで良かったのか？」と自問自答する日々、しかしそんな心配をよそにそれ以降一度も泣くこともなく、学校で自分なりの楽しみを見つけて何とか頑張っていました。特に学校で出されるスクールランチは娘の口に合ったようで毎日ランチに何を食べたか報告するのが日課のようになりました(デザートが付くというのがポイントだったようです)そんな健気な我が子の姿が今でも目に焼き付いています。

それから半年が過ぎ、長女も現地校に慣れてきた2010年4月日本なら小学校に入学する時期ロンドン補習授業校へ入学し平日は現地校、土曜日は補習校へ通うという生活が始まりました。長女は日本にいるお友達と同じように日本語の学校に入学したことがとても嬉しそうでした。そして英語に慣れてきたとは言え、まだまだ日本語の方がすんなり出てくる娘にとって補習校は快適でとても伸び伸び楽しく学べる場となったようです。長女が補習校へ入学したのと同時に2歳になった次女は近くのNurseryへ通い始め、子供たちの社会生活がいきなりに広がっていきました。

2年目に入るとイギリスでの生活にも慣れ、子供たちもたくさんお友達が出来、私も現地校・Nursery・補習校の送り迎えや色々な行事に明け暮れる日々を送っていたところ夫からハンガリーへの転勤の話を知りました。「え??まだイギリスに来て二年も経っ

ていないのに。。。」「子供たちはまた転校で大丈夫かしら?」「ハンガリーってどんなところなんだろう?」など色々な考えが浮かんできましたが、「案ずるより産むが易し」。実際ハンガリーに来てみると情緒ある街並み・緑豊かな自然にすっかり魅了されました。

ハンガリーでは子供たちはイギリスのカリキュラムを取り入れているブリティッシュインターナショナルで長女year4、次女Nurseryへ転入し(この時点では長女が自ら英語の学校へ行きたいと希望しました)土曜日はみどりの丘補習校2年生として通う事になりました。



インターに転入した長女はイギリス時代とは比べものにならない位の速さでクラスや学校に馴染んでいきました、やはり基本的な英語力が身につけていた事またインターでは色々な国籍のクラスメートがいてそれぞれの個性があるのが当たり

前、それを自然に受け入れてくれる雰囲気娘に合っていたように思います。

Nurseryクラスの次女はちょっと悪戦苦闘気味でした、何回か先生方と話し合う中で指摘された点がありました。ハンガリーで面倒を見てくれる祖父母や親戚はいますか?と。もちろんいません。娘が先生になかなか心を開かず、先生に対してどう振舞っているのか分からない様子なのはきっと周りに安心して甘えられる大人がいなくて不安なのではないかという事でした。正しくその通り、我が家はイギリス時代からずっと夫が平日はほとんど出張でいない平日母子家庭のような状態なので娘達にとって身近に頼れる大人は私しかいません。しかも次女は1歳半から海外にいたので日本の祖父母や親戚に可愛がってもらった記憶も幼すぎて残っていないようです。そんな娘のために色々な人と触れ合える機会を作ってあげたいなあと考えていたところ、長女が通い始めたみどりの丘補習校で未就児を対象にした幼児サークルがあると聞き早速参加させてもらうことにしました。

最初にみどりの丘補習校に通うようになった長女は初日から優しい先生・元気なお友達のおかげですぐに打ち解け、休み時間には皆で一緒におにごっこをして遊んでいましたと先生から報告を



いただいた時には本当に安心しました、それから10カ月が経ち色々な行事も経験しました。補習校上げてのバザーは地元の人たちやハンガリー在住の日本人で溢れかえるくらいの大盛況で娘達もお気に入りのものをしっかりゲットしていました、年始のかかる大会、学習発表会、春の遠足などとても楽しい思い出です。

学習発表会ではナレーター役になった娘、自分から進んで何回も何回もセリフを練習し本番に臨みました。劇が無事終わった時のみな嬉しそう顔、最高でした!学習面では3年生になり学ぶ漢字も増え教科書の内容もだんだん高度になってきました、毎週先生から送って頂く授業内容報告のメールでとても丁寧に我が子の様子・課題など教えてもらいとても有難いです。

次女も月2回の幼児サークルに参加するようになり毎回とても楽

しみにしています。相変わらず恥ずかしがり屋で先生から話しかけられても私の後ろに隠れたりしていますが、幼児サークルで絵本を読んでもらったり工作で色々なものを作るのが大好きです。工作で作ったものを家に持って帰って、家族に誇らしげに見せてくれて大切にしています。

このハンガリーでの素晴らしい出会い・経験全てが子供達の「心の糧」となりこれから歩いていく人生の支えになってくれる事と思います。

日本から遠く離れたハンガリーで日本語学習そして日本文化に触れる機会を得られた事、暖かく迎え入れてくれた先生・お友達・保護者の皆さまと出逢えた事全てに感謝しております。

(宮崎彩香 みやざきあやか)



### ふれあい大運動会に参加して

9月16日(日)に開催された運動会に、補習校の生徒たちも参加させていただきました。

天気にも恵まれて、日本人学校の生徒の皆さんと一緒に短距離走やパンくい競争・玉投げ・リレー・綱引きなど、普段現地校やインター校に通う子供たちが体験した事のない事ばかりでしたが、補習校生徒も赤組と白組に分かれて一生懸命競技をし、大きな声で力いっぱい応援していました。

参加者全員が各競技に精一杯の力を出し切っていて、保護者も一緒になって笑顔で楽しむ事ができたかと思えます。

接戦の結果、白組の勝利となりましたが、生徒たちが2色のメダルを嬉しそうに眺めている姿を見ると、全員に金色のメダルをかけてあげたいと思いました。すでに来年に向けて、「今度はあししよう。こうしよう。勝たなくては!」など子供たちから意見が飛び交っていました。そして短い時間ではありましたが、日本人学校の生徒の皆さんと交流が出来た事も嬉しい出来事の一つとして生徒たちの心に残る運動会となったと感じています。

(桑名一恵 くわなかずえ)



## 心をひとつに ～ブダペスト日本人学校ふれあい大運動会～ 坂本 華衣

すがすがしい秋晴れのもと、第8回ブダペスト日本人学校「ふれあい大運動会」を、本年度もハンガリー日本商工会様にご支援を頂くなか開催することができました。

私たち教職員は、小学部・中学部合わせて65名の児童生徒が、運動会を通じて、集団としての規律や協力することの大切さ、思いやりの心を育ててほしいと願い、一丸となって準備を進めてきました。

今年の児童生徒会スローガンは、「努力で輝く笑顔のメダル～BJS魂ここにあり～」でした。勝っても負けても、仲間との思い出や、努力してきたことが最高のメダルになるようにとの想いが込められています。このスローガンのもと、7月の中頃から中学部が中心となり、団旗の作成、応援の選曲やダンスなどのことを話し合い、運動会成功に向けて一歩ずつ取り組みを行いました。

夏休みが明けると、すぐに練習が始まりました。現地校のヴィラニョシュ校と共有で施設を使用しているため、限られた時間・スペースの中での練習となりました。

小学部1年生にとっては、初めての運動会。上級生のお兄さん・お姉さんについていこう

と、小さな体で一生懸命練習に臨んでいました。そして、中学部3年生にとっては、最後の運動会。悔いの残らない運動会になるように、自分たちができることは全てやろうと意気込んでいました。しかし、そんな思いとは裏腹に、全児童生徒が赤白に分かれて行う応援合戦の練習では、「思うように指示が通らない」「下級生のやる気を引き出すことができない」など、同じ方向へ引っ張っていくことの難しさを生徒自身が感じ、何度も話し合いがもたれました。自分の思いがうまく伝わらず涙を流した応援団長、真剣に自分の考えをぶつけた団員、お互いが真剣に向き合うことで、そこには絆が生まれ、よりよいものへと作り上げていくことができました。壁を一つ一つ乗り越え、日に日に心も体も成長していく子どもたちを見ながら、嬉しく感じました。

みんなの気持ちも一つになり、いよいよ本番を迎えました。当日は、家族や来場の方々への声援を受け、児童生徒が今まで練習してきた成果を十分に発揮することができました。小学部1年生から4年生による花笠音頭では、曲に合わせて全身を大きく使って踊る児童に大きな拍手が送られました。

また、小学部5年生から中学部3年生までによる組体操では、初めは倒立さえ難しい状況でしたが、練習を積み重ねていくうちに、「絶対成功させてやる」という強い気持ちが、目に、表情に、そして行動に表れ、本番では自分たちも満足いく素晴らしい演技をお見せすることができました。終わった後の児童生徒の表情は、充実感と自信に満ち溢れていました。そのことが、児童の日記からもうかがうことができます。

その他の競技においても、親子で息を合わせて大玉を転がしたり、ハンガリーの方々と一緒に勝利を喜んだり、それぞれの場面が一人ひとりの心に残るものとなりました。

児童生徒同士のふれあい、親子のふれあい、そして他校児童をはじめハンガリー在住の方とのふれあいがあり、そこにはいつも笑顔のメダルがきらきらと輝いていました。

最後に、運動会の開催にあたり、たくさんの方々にご尽力いただきましたこと、またがんばっている子どもたちに温かいご声援をいただきましたことに心から感謝申し上げます。

(さかもと・かえ 日本人学校)



でした。だから、できるだけ大きな声でおうえんしました。おうえんをしているとき、後ろをみると、白組の方が多くて、「ああ、負けちゃう。」

と小さな声で言いました。でも、負けたくないから、おうえんをつづけました。

そして、いよいよ短きより走のけっか発表です。わたしは、ドキドキ、ワクワクしていました。でも、けっかは、赤組が負けたので、とてもやさしいし、がっかりしました。

でも、他のきょうぎを一生けんめいがんばりました。かつことはできなかったけど、がんばって走って負けたなら、やる気ゼロで負けるよりはいいとおもいました。

シャン!シャン!

小学部3年 大野 円香

「シャン。」

日本人学校オリジナルの花がさと、すずを作りました。かんせいしたとき、「ワー。」と心の中でさげびました。

そして、いよいよ本番の日、「うまくおどれるかな。」と、ちょっと心ばいになってきました。「がんばるぞ。」

と、言いながら、じゅんびをしました。おどっているとき、ドキドキしました。今どういふうに見えているのか知りたくなりました。

いどうするとき、ちゃんとした場所に行けたので、ほっとしました。なるべく、はずみながらやりました。

おわったあと、お父さんが、「じゃうずだったよ。」

と、ほめてくれました。とてもうれしかったです。

家に帰って、お父さんがとってくれた写真を見ました。どういふうにとれたのかなと、気になりました。写真を見てみると、おくれていなかったし、きびきびとできていました。「よかった。」

と、写真を見ながらいいました。でも、「ヤッショーマカショ。」と、言うとき、もう少し大きな声を出せばよかったと、こうかいました。それができたらかんべきでした。花がさ音頭をかんべきにするには、あともう少しなので、次できるときには、かんべきなおどりにしたいと思います。

「次は、がんばろう。」

と言って、写真を見るのをやめました。

これまで、がんばって練習してきたかいがあったなと思いました。

小学部最後の運動会

小学部6年 島村 岳岐

「パーン。」

「ピー。」

という音が会場中に響き渡りました。ぼくはこの音を聞く運動会のことを思い出します。

短距離走のスタート前、ぼくは少し不安でした。最後まで走ることができるかなと思ったり、1位でゴールできるかなと考えたりしました。そして、5年生の最後の組が終わり、

ついに自分の番が来た時、とてもドキドキしました。

「パーン」

先生が、スタートの合図を出しました。だんだんスピードを上げていきました。しかし、まだ半分も行っていないところで足をくじいてしまいました。それでもなんとかゴールすることができ気づいたら1位でした。ゴールテープを切ったとき、ほっとしました。

そして、いよいよ組体操が始まりました。

「ピー」

先生が、笛で合図をだしました。組体操も失敗しないかなと不安に思っていました。しかし、1年生から4年生の児童や見に来て下さった人の前に立つと、成功させて最高の演技にしようと思い、しっかり演技に集中することができました。最初から最後まで気を抜かずに、きびきび動くことができました。ダブル倒立は、練習の時は失敗することもあったけど、本番では、一回で確実に決めることができ安心しました。ウェーブの波を速くしたり、全員ピラミッドもしっかり支えたりすることができました。

また、3段タワーでは、中学部と一緒に一番下のところで支え持ち上げました。他の技もみんなと協力して成功させることができました。

ぼくは、運動会で協力することの大切さとあきらめなければできるといことがわかったので、これから色々なことをみんなで協力し、あきらめないようにしたいです。



一番うまくできた組体操

小学部6年 寺内 さくら

「行くぞ、おお」

みんなで円じんを組んで気合いを入れたところから組体操が始まりました。私は、円じんの時、いつも練習で言う時よりも大きな声で、「おお」

と、さげびました。

笛の合図がなり、走って自分の位置に立ちました。私は、倒立が一発でできるかとても心配でした。でも、足を大きくけり上げてなんとか一発で成功することができました。

その後も、一つの演技が終わったら前を向いてぴしと気をつけたり、移動の時だらだら行動するのではなく自分の場所まできばき移動したりすることを心がけました。一、二、三人の技のところは全て完璧に演技することができました。いよいよ組体操の最後の演技がきました。大技では、女子の三段タワー

が失敗せずにできるか少し不安でしたが、みんなで声かけをかけ合って、大技もしっかりと成功させることができました。そして、無事に組体操が終わりました。技が成功する度にお客さんが拍手をしてくれたので、良い演技ができたのだなとうれしくなりました。自分自身でも、今までで一番良い演技ができたなと思いました。

客席にもどった時、下級生から

「すごかったね。こわくなかったの」

と、言われ、お母さんからも、

「がんばったね」

と、言ってもらえたので、ほっとしました。運動会の組体操は、赤白関係なくみんなで協力してできる競技です。いつも失敗し、こわくて友だちを信じるのがなかなかできなかったけど、練習をしいていくうちに、だんだん友だちを信じるができるようになりました。この組体操を通じて得たことを、これからの学校生活でも生かしていきたいです。

ゴールが遠い

小学部3年 彦坂 日向子

「長っ。」

わたしは、思ったより走るきよりが長かったので、とてもおどろきました。なぜなら、練習をしたときは、走るきよりが短くて、運動会当日も同じくらいおどろかかと思っていたからです。

わたしは心の中で、「一番になれるように。」と言いました。

そして、いよいよ走る番がきました。と中でぬかれそうになったけど、三人の中で一位になりたかったから、全力を出して走りました。すると、一番になれる。わたしは、ゴールテープを一番に通る過ぎるのははじめてで、とてもうれしかったです。

ゴールした後も、大きな声で、「がんばれ。がんばって。」

と赤組のみんなをおうえんしました。わたしは、短きより走が大運動会の中で一番楽しみ

## ポスト香川時代のBundesliga

盛田 常夫

### 香川真司が残したインパクト

日本には分からないだろうが、ドイツのサッカー界に通じている者には香川真司が残したインパクトは大きい。ハンガリーでもサッカー好きなら、香川の名前を知らない者はいない。それほどこの2年のブンデスリーガにおける香川の活躍は素晴らしかった。現在の世界のサッカー界で、興業的に一番成功しているのはドイツだ。なによりも各クラブの競技場が大きい。ドルトムントのそれは8万人収容である。この大きな競技場がいつも満席になる。この大観衆の中で2年連続ドルトムントの中心選手として2連覇に貢献した。リーグ制覇の要になるゲームで必ずと言ってよいほどゴールに絡んできた。香川なしにドルトムントの連覇はなかった。

ドイツリーグはイギリスのプレミアリーグやイタリアのセリエAに比べて一段下に見られているが、経営的に一番安定している。競技場の規模もプレミアリーグのそれをはるかに凌駕する。この大観衆がドイツサッカーを支えて行けば、近い将来、プレミアリーグに肩を並べる時代が到来するだろう。何よりも経営基盤の強いドイツ企業によって支えられているのが強みである。プレミアリーグなどはロシアや中東の資本なしでは維持できなくなっている。

### 香川のどこが凄

セリエAで活躍した中田はパルマを出てからの成績は今一だったし、ブンデスリーガで長くプレーした高原もフランクフルトに移籍して2007年に11得点を挙げたが、活躍したのはその1年だけ。チームの中心選手として、2連覇を達成した香川はこの二人とは比較にならない注目を浴び、その活躍がマンチェスター・ユナイティッドへの移籍を実現させた。

香川が注目されるのは欧州の選手とはひと味違うサッカーセンスをもっているから。体が小さいから欧州の選手とまともにぶつかり合ったのでは勝ち目がない。相手が体を寄せてくる前にパスを出し、無用な体力勝負を避け、逆に相手を翻弄することができる。ほとんどワンタッチでパスを出す。相手が間合いを詰めようとする瞬間に球が離れ

てしまうので、相手は一瞬の虚を突かれ、相手のディフェンスが崩れる。しかも、パスを出した後の動きが素早い。いつの間にかペナルティエリア近くに出発し、こぼれ球や折り返しのパスを受ける態勢にいる。子ネズミのように瞬間的に動くので、相手ディフェンスが捕らえきれない。やはり体が小さいバルセロナのメッシやイエニエスタに似ている。

欧州の攻撃型の選手は大きな体を使って、縦への突進を信条として、可能な限り自分でボールを持ち込もうとする。パスサッカーを信条とするバルセロナを除いて、ほとんどのチームは突進型の攻撃選手で状況を打開しようとする。しかし、突進力があっても一人でゴールを得るのは難しい。一本調子に縦に攻撃するのではなく、キーマンになる選手を経由させ、横と縦を連動する攻撃態勢をとれば、よりチャンスが広がる。ところが、欧州のチームにはこういう連動を生み出せる選手が少ない。そこに香川の希少価値がある。

マンチェスター・ユナイティッドのファーガソン監督が香川の獲得を熱望したのは、こういう役割を考えてのことだ。しかし、昨年までのマンチェスター・ユナイティッドは2トップで攻める型をとっている。今、香川を活かすためにフォーメーションを変え、1トップの下にMF3人を並べ、その真ん中に香川を置くという戦法を試している。トップの選手や両サイドの選手が香川を経由させるという意識がなければこのフォーメーションは機能しないが、プレミアリーグで実績のない香川をすぐに信頼するというのは難しい。フォーメーションが変わっても、攻撃型の選手が一人で状況を打開しようすると、香川の実存価値がなくなる。このような難しい状況の中でも、ゴールに絡む実績を作り存在感を示す以外に方法がない。それが勝負の世界である。

### 香川に続く日本選手

香川なき後の今年のブンデスリーガで、数多くの日本選手が活躍している。まだシーズンが始まったばかりだが、4連勝と首位を走っているフランクフルトに乾貴士がいる。2部のボーフムでの活躍が認められ、今

シーズンから1部に昇格したフランクフルトに移籍した。その乾が左の攻撃的MFとして定着しているだけでなく、左右のコーナーキック、ゴールに近いフリーキックをすべて任されている。それだけ、乾のキックへの信頼が高い。乾も香川と同様に小柄だが、非常にすばしっこく、ゴールへの嗅覚に優れている。

今シーズン第4節で、清武がトップ下を張る好調ニルンベルグとの対決があった。今シーズンから加入した清武弘嗣もニルンベルグで左右のコーナーキック、フリーキックをすべて任されている。第3節では週間MVPにも選ばれ、監督の信頼が厚い。

この両者の直接対決で乾の素晴らしいゴールが生まれた。左サイドでボールを受けた乾はパスを出すと見せかけて、横に素早く移動して2名のディフェンスを置き去りにし、ペナルティエリア近くまで移動して、さらに横に移動してさらに2名のディフェンスを釘付けにしたままゴール右にボールを蹴り込んだ。Eurosports2のハンガリー人コメンターは、「こりゃ、なんとというゴールだ。まるでメッシだ。どうして次から次にこんなにうまい日本のサッカー選手がでてくるのだ」と叫んでいた。このゴールで乾は週間ベストイヴンに選出されただけでなく、ブンデスリーガ週間MVPとベストゴール賞を獲得した。第5節のドルトムントとの決戦でも、乾は0-2のビハインドからアシストと同点ゴールを決めた。ドルトムントのクロップ監督には乾が香川とダブって見えたに違いない。シュットガルトに岡崎慎司と酒井高典、シャルケに内田篤人、ハノーファーに酒井宏樹、レヴァークーゼンに細貝萌、そしてホッフェンハイムにはバイエルンミュンヘンで1年過ごした宇佐美貴史(第5節のベストイレブン)が頑張っている。ドイツのサッカーチームは第二第三の香川を掘り出そうと、日本市場の開拓に懸命になっている。逆に見れば、Jリーグのレベルはけっして低くないということ。だから、Jリーグの経営者選手を高く売れる能力を身につけることが肝心だ。

(もりた・つねお)



## スポーツ行事・運動サークル情報



### ゴルフ部

<最近の活動状況>

- 月例会 <優勝> <2位> <3位>
  - ・7月月例会 栗原(スタンレー電気)、高橋(AEMSS)、坂下(ブリジストン)
  - ・8月月例会 竹内(マジャールスズキ)、森本(菱和)、阿部(大気社)
  - ・9月月例会 金子(東洋シート)、川口(日本人学校)、安藤(伊藤忠)
  - 第16回「大吉杯」ゴルフマッチプレー選手権(春季大会)  
＝ゴルフ部後援＝
- 優勝: 坂梨(丸紅)、準優勝: 畑山(ソニー)、3位: 柿崎(マジャールスズキ)

<2012年度、今後の活動、公式行事予定>

- 月例会(何れもPANNONIA Golf Course)
- ・10月7日(日)08:00～ ・11月4日(日)08:00～
- 第17回「大吉杯」ゴルフマッチプレー選手権(秋季大会)  
＝ゴルフ部後援＝
- 8月中旬～10月下旬
- 第3回年代別対抗戦:  
30歳から60歳までの各年齢層による対抗戦(秋頃予定)

<部員募集>

ベテラン部員が帰国され、現在、部員数が減少気味です。ビギナー、女性部員も大歓迎ですので、ゴルフにご興味のある方は下記連絡先までお気軽にお問い合わせ下さい。

連絡先: 藤井: akihiro.fujii@eurasia.hu

以上

### テニス部

テニス部冬季シーズン開始!

10月第2週より日曜テニスの冬季シーズンが開始します!!  
参加ご希望の方は以下の代表者までご連絡をお願いします。  
冬季は暖房が完備されたテント内でテニスをしますので、雨による中止も無く、寒いのが苦手という方でも思いっきり汗が掛けますのでぜひご参加下さい!  
初心者から経験者まで気軽に参加し、試合を中心に活動しています。

場所: マッチポイントテニスコート

時間: 9:00～11:00

冬季開始日: 10/7～

代表 的場: h-matoba@exedy.com

### 秋季ソフトボール大会(9月22日、商工会主催)

優勝: デンソーAチーム

2位: セゲドチーム

3位: 笑好会チーム(ジャンケン勝ち)

4位: ハンガリーチーム

### バドミントン部

中学校の体育館の2面を借りて、毎週日曜日に2時間程度の活動をしています。

毎回参加される方が、運動不足の素人おじさんに加え、女性と子供が数名で合計10名前後です。その他、時々参加される方が10名程います。

はじめの30分間は練習、その後ダブルスの試合を行っています。経験者が参加される時は、初心者への打ち方指導もやっています。ラケットは会場で貸し出し出来ますので、室内シューズを持ってきて頂ければいつでも参加可能です。参加費は、当面1,000HUF/大人(試合に参加しない子供はタダ)でやっています。

興味のある方は軽い気持ちで結構ですので、是非参加ください。会場都合・参加者の都合により不定期に休みもありますので、事前に以下のメールに問合せ頂けると幸いです。

#### ① 現在の部員数

大人: 約10名(女性も数名)、他に時々参加の方が10名ほど  
子供: 約5名(試合参加は1名、他は会場を走り回っています。)

#### ② 活動場所と時間帯

日時 毎週日曜日の午後4時から2時間  
場所 中学校体育館(ブダペスト2区、Kokeny u. 44.)

#### ③ その他の活動

ウィーン日本人バドミントンクラブとの交流会  
飲み会

#### ④ 代表の名前と連絡先

代表 升谷裕司  
問合せ先 hujpbad@gmail.com

### 編集部よりのお知らせ



「ドナウの四季」のHPが完成しました。これまで掲載されたすべての原稿を読むことができます。 <http://www.danube4seasons.com>

皆様の原稿をお待ちしています。エッセイ、

ハンガリー履歴書、自己紹介、サークル紹介などの記事をお寄せください。提出いただいた原稿は、紙面統一の編集のために修正することがあります。修正した原稿は執筆者の校正をお願いしています。

原稿は電子ファイルで、morita.magyar@gmail.comへお送りください。Word文書あるいは一太郎文書でお願いします。EXCEL形式での提出はお控えください。写真および図形は別ファイルで送付ください。

☆日本人演奏家出演コンサート情報

■アニメ・ムジツェ室内合奏団 出演:井上 奈央子 (ヴァイオリン)

- 1) 2012年10月20日(土)18:00 Fasori Református Templom, Budapest 1071, Városligeti fasor 7.  
パールウール・ヤーノシュ(オルガン)  
曲目:ヘンデル: オルガン協奏曲 口長調 op.4 no.2  
コンチェルト グロツソ イ長調 op.6 no.11  
オルガン協奏曲 ヘ長調 ("Cuckoo and Nightingale") no.13
- 2) 2012年10月26日(金)19:00 Festetics Palota/ Festetics Palace, Budapest 1088 Pollack Mihály tér 3.  
バラーティ・クリストフ(ヴァイオリン)  
曲目: J. S. バッハ: ヴァイオリン協奏曲 ホ長調  
メンデルスゾーン: ヴァイオリン協奏曲 二短調  
モーツァルト: ヴァイオリン協奏曲 イ長調
- 3) 2012年11月28日(水)19:00 Óbudai Társaskör, Budapest 1036 Kiskorona u.7  
ローマン・ディッタ(チェロ)、ポリナ・オアスティルチャク(ソプラノ)  
曲目: ヴィヴァルディー: シンフォニアRV 112, RV116, RV162  
モーツァルト: 皇帝ティートの慈悲 より "Non piu di fiori", "Parto, parto"  
C.Ph.E. バッハ: チェロ協奏曲 八短調  
カリンニコフ: 弦楽セレナーデ 他



■ グランドデュオ・音楽サロンコンサート 共演:岩崎 由佳 (ピアノ)  
2012年10月12日(金)19:00 Óbudai Társaskör, Budapest 1036 Kiskorona u.7



コンサート情報



コルナイが綴る 20 世紀中欧の歴史証言

池田信夫「21世紀最初の10年ベスト経済書」第2位にランク  
「週刊ダイヤモンド」2006年ベスト経済書第9位にランクイン

コルナイ・ヤーノシュ自伝

—思索する力を得てコルナイ・ヤーノシュ【著】 盛田常夫【訳】  
◆好評発売中! ◆定価 4935 円 (税込) ◆A 5 判 / ISBN 4-535-55473-0 日本評論社



体制転換の経済学

黄色の教科書シリーズで知られる専門学部の定番テキスト。体制転換の理論と転換直後の現状を分析。各大学で教科書として使用。

盛田常夫著

第一部 社会主義経済の失敗  
社会主義崩壊をもたらした社会的退化への論理を構築。交換経済と再分配経済の比較分析に新たな視点を提供。  
第二部 ポスト社会主義経済  
体制転換の過渡期の問題をすべて取り上げ、解決の道筋を示す。地域による体制転換の違いを解明。

■ 新世社 新経済学ライブラリー20 定価2781円(税込)



なぜハンガリーは独創的な科学者を輩出したのか

20 世紀を創ったハンガリー人 マルクス・ジョルジュ【著】 盛田常夫【編訳】

■ 定価 3045 円 (税込) A 5 判  
■ ISBN 4-535-78331-4

異星人伝説

「週刊文春」(米原万里)、「週刊ダイヤモンド」(北村伸行—橋大学教授)で書評。  
ハンガリーは 20 世紀の科学の発展に貢献した多くの頭脳を輩出した。大きな足跡を残した科学者たちの評伝。

体制転換20年の歴史的・理論的総括の書

ポスト社会主義の政治経済学

体制転換20年のハンガリー:旧体制の変化と継続

新しい概念を駆使して、体制転換以後の中欧社会の状況を分析。

日本経済新聞(2010年3月21日)ほか、多数の書評。

旧来の定説を覆し、新たな知見を広める革新の書。

盛田 常夫著 日本評論社 定価3800円



インターネットで人生の楽しさを広げましょう! オトナももっと遊ぶ時代

# 人生に夢と輝きを BYOOL SNS ~The Best Years Of Our Lives~

**BYOOL SNS** (Social Networking Service)は、大人が楽しめるユーザー参加型のWEBサイトです。スマートな大人が集まるグローバルな知的空間を目指しています。現在、10ヶ国の海外に住む日本人が参加しており、国を超えて、文化や政治・経済始め、幅広い分野において、情報発信、議論を行なっています。あなたの知的好奇心を満たしてみませんか?

★参加方法：事務局まで参加希望の旨、メールをお願いします。招待メールをお送りします。

BYOOL事務局 Email: [admin@byool.com](mailto:admin@byool.com) 「BYOOL Bloggers」 <http://www.byool.com>

★お問い合わせ：上記事務局アドレスまでお問い合わせください。

## 日記・エッセイ



自分のページを持てる。  
日記、エッセイ、ブログ、  
記録として。

## コミュニティ



同じ興味・関心を持つ  
仲間の交流の場。  
OB/OG会にも。

## 豊かさ・輝き



様々な人の意見・情報のシェア、  
そこから生まれる新しい  
発見や気づきが、  
人生を豊かに輝きあるものに。

## 安心・安全



無料会員制。  
SNSのメンバーだけが利用  
できるクローズドなサービス  
なので、安心安全。

書き込みはすべて非公開にできますので、スケジュール管理や、何か自分の記録をつけたり、コミュニティをグループの連絡用に使用していらっしゃるメンバーもいます。

## BYOOL Selection

BYOOLでは、品質にこだわり抜いた無農薬・有機栽培の緑茶知覧茶・有機緑茶と、コクのある味わいの知覧茶・深むし茶を皆様にご紹介しております。

国内でも有数のお茶の産地として知られる鹿児島県知覧町の、全国茶品評会などのコンクールで、上位入賞経験を持つお茶園から、直接取り寄せました。環境に優しく、そして、人に優しいお茶で、心落ち着かす優雅なひとときをお過ごしください。 **BYOOL Selection:** <http://byool.open365.jp/>

## ちくちく DESIGN

CI、広告、ロゴ、ホームページ等  
名刺1枚からご希望の言語にて  
デザイン致します。

各種パッケージ、インテリアのデザイン、  
内装工事、翻訳から印刷まで  
幅広く受け承っております。  
お気軽にお問い合わせ下さい。

SAKURA DESIGN: [info@innerdesign.hu](mailto:info@innerdesign.hu)  
Inner Design Group · 1021 Budapest, Bognár utca 7.  
Tel/Fax: 1-200 3213 · Mobile: 06 20 480 4431

[www.innerdesign.hu](http://www.innerdesign.hu)

## Propart Hungary Bt.

各種コンサート企画・製作・国際交流イベントを  
中心とした業務の運営。ハンガリーを拠点にグ  
ローバルな企画・マネジメント展開を行って  
います。お気軽に、御相談下さい。

- ・音楽企画/マネージメント
- ・若手音楽家の育成サポート
- ・国際交流事業企画運営
- ・留学/音楽研修サポート
- ・短/長期賃貸物件仲介
- ・各種通訳
- ・翻訳サポート
- ・買い/レンタルピアノ仲介
- ・輸入/輸出楽器仲介

ハンガリー国内出張演奏、  
各楽器講師紹介なども随時承っております。

### Propart Hungary Bt.

Address: 1089 Budapest, Kőris utca 25. II/6  
Tel&Fax: +36-1-786-7846  
Mobil: +36-70-3815548  
e-mail: [propart@chello.hu](mailto:propart@chello.hu)  
web: <http://propart.client.jp/>

Propart